

子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

*こんなことをしていませんか？

- ・言葉で注意をしたが言うことを聞かないため頬を叩いた。
- ・他人のものをとったのでお尻を叩いた。
- ・友達を殴ってケガをさせたので、同じように子どもを殴った。



→これらは全て体罰です。

親は「子どもが将来困らないようにしっかりとしつけなくては」「他人に迷惑をかける子どもに育てなくては」といった思いから、しつけとして子どもに罰を与えようとすることもあるかもしれません。しかし、たとえしつけのためだと親が思っても子どもの体や心に何らかの苦痛や不快感をもたらす行為は体罰に該当し、法律で禁止されています。



- ・やる気を出させるという口実で兄弟姉妹を引き合いにけなした。
- ・冗談のつもりで「お前はバカで何も出来ない」「お前なんて生まれてこなければよかった」と存在を否定するようなことを言った。

→これらは全て子どもの心を傷つける行為であり、子どもの成長発達に悪影響を与える可能性があります。

*なぜ体罰などをしてはいけないのか

- ・体罰や暴言を受けた体験がトラウマ(心的外傷)となり、心身にダメージを起こし、成長発達に悪影響を与えるため。虐待に至らない程度の軽い体罰であっても変わらずダメージを受けると言われています。
- ・はじめは軽く叩く程度でも、だんだんとエスカレートし、気づいたときには虐待に発展する恐れがあります。
- ・体罰や暴言により、一時的に言うことを聞くことがありますが、自分で考えたり学んだりしているわけではなく、大人への恐怖心のみ心に残ってしまい、根本的な解決にはなりません。

→大人に恐怖心を持った子どもは親の顔色を伺うようになり、大事な時に SOS を伝えられなくなり、いじめや非行等の大きな問題に発展してしまう可能性もあります。

*体罰等によらない子育てのために

・イライラが爆発する前に、クールダウンするための自分なりの方法や、子どもとの関わりの工夫を見つけておきましょう。

・育児の負担を一人で抱え込まずに、親自身が SOS を出して、家族に分担してもらったり、町や支援サービスの利用も検討しましょう。子育ての苦勞について気軽に相談できる人や場所を見つけることも大事になってきます。



クールダウン



SOS を出そう

→相談窓口

児童課 内線 147

知多児童・障がい者相談センター 0569-22-3939

児童相談所全国共通ダイヤル 189(いちはやく)

体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きなダメージを与えているかもしれないのです。



・厳しい体罰により、前頭前野(社会生活に極めて重要な脳部分)の容積が 19.1%減少
・言葉の暴力により、聴覚野(声や音を知覚する脳部位)が変形

出典:平成 28 年度 厚生労働省科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業

提供:福井大学 友田明美教授